



# 三浦半島支部だより

平成20年9月10日発行

第6号

発行者： 社団法人宮陵会（神奈川大学校友会）三浦半島支部 企画・広報委員会

事務局： 鎌倉市津西1-31-15 TEL0467-32-4957

## 平成20年度支部通常総会を開催

～好評だった神大創立80周年記念文化講演会～

### ～第1部 総会提出議案を原案通り承認～

平成20年度支部総会は6月14日（土）午後1時30分から、京浜急行汐入駅前のホテルトリニティ横須賀4階「逗子」で開催され、37名の会員が出席した。

総会の司会進行は、内藤正久副支部長（昭和51年機械）により執り行われ、古川勝彦支部長（昭和40年経済）は「6月11日東京ドームで行われた全日本大学野球選手権神大ー日本文理大戦の応援に出かけ、聞き苦しくなるほど声をつぶしてしまいました。今後も皆さんと力をあわせ知恵を絞り、支部の発展に邁進して行きたいと思っておりますので、引き続きご協力お願いしたい」と挨拶された。来賓としてご出席いただいた大場憲治宮陵会本部専務理事からは「本日はお招きいただきありがとうございます。昨年、宮陵会は設立70周年、神奈川大学は本年5月創立80周年を迎えました。卒業生の皆様には、色々な形でご支援ご協力をいただき、記念事業を進めることができました。また昨年の神大フェスタの際は、ブースでのご協力ありがとうございました。本部の通常総会は5月25日に開催しました。今年1年与えられた業務に励んでまいりますので、よろしくお願いたします。支部会員の皆様のご健勝を祈念し挨拶いたします。」と述べられた。

総会議事は、議長に砂川正夫副支部長（昭和44年経済）を選任し、第1号議案「平成19年度活動報告について」から第4号議案「平成20年度収支予算案について」など4議案を審議し、原案どうり承認されました。

支部設立3年目の本年は、任期2年の役員改選期に当たることから、第5号議案「平成20年・21年度役

員選任について」が諮られ、支部長提案の役員候補者全員が承認され、今後2年間支部運営を任されることとなった。最後に村田龍也会計監査（昭和39年経済）が閉会の挨拶を行い支部通常総会は終了した。

### ～第2部 講演会講師は鈴木芳徳名誉教授～

第2部の「神奈川大学創立80周年記念文化講演会」（主催宮陵会三浦半島支部、協力神奈川大学、後援横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町各教育委員会）が、三浦地区原柳作幹事の司会により午後2時30分から開催された。講師は神奈川大学名誉教授鈴木芳徳先生。「日本の大学の現状と将来像」というテーマで1時間30分にわたりご講演をいただいた。

鈴木先生は、昭和12年生まれ、九州大学経済学部卒業後、同大学大学院経済学研究科博士課程終了（経済学博士）。神奈川大学経済学部長、学校法人神奈川大学常務理事を歴任し、平成19年3月神奈川大学を定年退職されるまで41年7か月務められた。専門は金融・証券論、株式会社論。ちなみに神奈川大学での鈴木ゼミ卒業生は約800名を数える。

今回の文化講演会開催にあたっては、卒業生・学生だけでなく、一般市民の方々にも聴講をお願いしたいとの思いから、三浦半島支部管内の4市1町の教育委員会に後援を申請し、支部管内にある28の県立・市立・私立高等学校長に開催案内状をお送りした。また市・町の広報紙、朝日・読売・神奈川新聞にも告知記事の掲載を依頼し、周知徹底を図ったが、残念ながら会場満席には至らなかった点が悔やまれる。



一般市民も参加し開催された文化講演会

鈴木先生の講演は、大変わかり易く、時折ジョークを飛ばして笑いを誘う話術は、見事なもので1時間30分が瞬く間に経過し終了した。

(講演要旨は3・4頁に掲載)

～第3部世代を超え、交流を深めた懇親会～

第3部の懇親会は、午後4時10分から来賓の宮陵会本部の大場憲治専務理事、鈴木芳徳先生。特別参加の平能孝一宮陵会専務理事、三縄昭男同監事、手塚正同体育振興委員長、斎藤勳元参議院議員、古家秀紀三井物産支部長、木村仁柔道部OB会支部長、鈴木芳徳ゼミOB松島信介氏等44名が出席し開催した。懇親会は、篠田拓郎先輩(昭和31年貿易)の乾杯の音頭で始まった。

今回初参加会員は塚田尚氏(昭和38年機械)、名取美佐男氏(昭和45年経済)、石田泰教氏(昭和48年貿易)の3名。初めて出席した特別参加の方々と共に壇上に登り自己紹介を行った。

前回のアトラクションは、神奈川大学女子学生のフラメンコチーム「ロスガトス」を招聘し大好評であったので、今回は神奈川大学ジャズ研究所(学生サークル)の現役学生3名に演奏をお願いした。

懇親会は、和気あいあいの雰囲気の中で進み、最後に体育会出身者が壇上に勢揃いし、参加者全員で声高らかに神奈川大学校歌を斉唱し、午後6時15分懇親会は幕を閉じた。三浦半島支部の新年賀詞交換会は、来年1月横須賀市内で開催される予定です。

(事務局長 鈴木 稔)



校歌斉唱後に「フレー、フレー神大」とエール



懇親会終了後出席者全員で記念撮影

〔平成20年・21年度三浦半島支部役員〕

(敬称略)

- ◎ 支部長 古川 勝彦
- ◎ 副支部長 小池 邦夫(鎌倉・逗葉地区)
- 砂川 正夫(横須賀・三浦地区)
- 内藤 正久(企画・広報担当)
- ◎ 事務局長 鈴木 稔
- ◎ 地区幹事長 岸本 光瑞(鎌倉・逗葉地区)
- 塩塚 定雄(横須賀・三浦地区)
- ◎ 地区幹事 篠田 拓郎(鎌倉地区)
- 若林 秀明
- 岸本 光瑞(逗子地区)
- 中川 六郎(葉山地区)
- 角谷 彰(横須賀地区)
- 菊池 武
- 結城 康雄
- 鈴木 和夫
- 星山 正範
- 星野 由希子
- 原 柳作(三浦地区)
- ◎ 会計 鈴木 稔
- ◎ 会計監査 村田 龍也
- 田中 久夫

(注) 鈴木 和夫氏(横須賀地区幹事)は新任

**総会を終え支部役員三役のコメント**

支部長 古川 勝彦

支部発足以来、2年経過しました。この間会員を始め役員の皆様、大学関係各位の支え、ご協力の賜物とこの紙面を借り厚く御礼申し上げます。

特に心がけたい点は①会員数の増加（各組織、団体の神大卒へのアプローチ他）、②県内他支部との連携強化（県内在住神大卒5万6千人のネットワークの輪を活かすべく県内支部連合定例会の開催他）であります。

副支部長 小池 邦夫

この2年間の支部活動（家族も参加した「歩こう会」、学生による余興、教授による講演会）の企画は、有益で特に鈴木芳徳先生の話は時間の経つのも忘れませんでした。

今後も知人、友人を誘ったり、会報を通じてPRに努め参加会員を増やすしかありません。三浦半島にある名所（例横須賀美術館）を「訪ねる会」などいかがでしょうか。

副支部長 砂川 正夫

発足当時より関係各位のご支援ならびに会員相互の努力により、新入会員が増加したが、継続して会報の発行、時局講演会、在学生クラブのアトラクション等そして新たに、地域福祉環境団体との共催イベント、他大学OB会との交流、会員間の異業種交流と支部のイメージアップを狙い新入会員増産体制を築きたい。

副支部長 内藤 正久

現職で時間的に自由にならないこともありますが、宮陵会本部（理事就任）と三浦半島支部の結びつきの強化と、三浦半島支部にお住まいの同窓生の輪を少しでも広めるために努力いたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

事務局長 鈴木 稔

宮陵会札幌支部役員が他支部会報に寄稿し「話題の無いところに人は集わない。母校に元気が無ければ卒業生は見向きもしない」を合言葉に支部イベントの企

画を練っているとのこと。会員にとって魅力ある支部を目指し、各種イベント等は役員会で検討を図り、実行できることから取り組みたいと思う。

**神大創立80周年記念文化講演会講演要旨**

講師 鈴木 芳徳名誉教授

**(1) 大学運営環境の急変**

神大の年間予算約200億円、学生数約2万人、収入の殆どが授業料。支出の約半分は人件費。県内では最大の大学。横浜国大は、国立独立行政法人が、横浜市大は、公立独立行政法人が運営管理を行っている。独立行政法人は、収支決算自前、当分の間国が金を出すが、いずれ零とするというもの。学長の上に理事長（経済人）がおり、経営のノウハウを導入しなければならなくなった。

横浜国大の収入は国からの運営費交付金等92億円、自己収入（授業料）64億円で賄われている。もしも国からの交付金が出なくなった時は、授業料を2倍に上げないと運営できなくなる恐れがある。

公立大学も地方自治体の財政悪化の影響で経営は容易では無い。関西の有名市立大学では、教員が全国に散っているような状況にある。大学の経営内容は、情報公開されておりインターネットで検索できる。

**(2) 18歳人口の減少**

18歳人口減少により、学校を選ばなければ受験者全員が大学に入学できる全入時代に入った。

（全国の大学数は559校）大学志願者の地域動向は、東京、南関東、大阪・京都の近畿圏が大きな塊になっており、他の地域は学生集めに苦労している。神奈川県の場合、立地条件が良いので受験者集めも有利。定年を迎える国立大学勤務の先生も二つ返事で来てくれており、教員確保の面でも恵まれている。

全入時代に入り、学生の基礎学力が低下しており、入学後そう簡単に是正できない。推薦入学は

～続く～

各校とも増やしており、何年間か良い学生を送り込んでくれた高校には、無条件で3名を受け入れている（毎年見直し）。推薦入学は功罪があり秋に入学が決まると勉強しないなど高校3年生のカリキュラムが崩れる弊害もある。

仏、独では大学入学検定試験があり、その試験に合格しないと受験機会は無い。文部科学省資料によると、国立大学授業料年間50万円、私立は100万円。米国の州立大学は50～60万円。超一流と云われるハーバード大学は私立で年間350万円。全米から優秀な学生を推薦で入れる。入学前の2～3年前から志願者を毎年インタビューし、パスした者は無試験入学。名家・有名人の子弟も受け入れる。最近では、日本の高校生も米国大学に進学するようになった。

英国は階級社会の国で、大学に入る者は特別のエリート。昔は授業料が無料であったが、徴収することになり紛糾した。卒業証書の授与は成績順でトップは万雷の拍手。お尻の人は全員が大笑い。夕刊紙にも載る。その点日本は平等で温情的。

### (3) 教育・研究機関の大学、最近の学生気質

大学は、教育と研究の二つの面を持ち、情報・知識の集積地。社会への発信、中立・公正が大学が持っているポジション。昔はテレビに大学教員のコメントが多く取り上げられたが、経済関係は野村総研、日本総研等のエコノミストに変わってきた。総研のエコノミストは、飛行機で現地に飛び、取材しレポートを書くのでかなわない。

東京大学経済学部卒業生の就職志望先の一番は外資系証券会社。昔の首席は中央官庁であった。

世の中抜け駆けの社会に変わっておりショックな出来事。

最近の大学生は、真面目に授業に出席し、思いやりがあり優しいが、自己決定力が弱く幼い。少子化で長男、長女の学生が95%、平均的なケースで自宅がある。恵まれ過ぎて人生に消極的な感じを受ける。サラリーマンの子弟が多いためか、世間のことを知らなくなった。若い先生には、授業も大切だが、企業の現場（工場等）に学生を連れて行くように助言している。

就職に有利、一生間違いないという理由から資

～続く～

格を欲しがる学生が多い。一面当たっているが、それさえあれば一生保証されるか。そんなに簡単には行かない。人付き合いが下手だから公認会計士になりたいという人もいるが、今の大手監査法人は500人も公認会計士・弁護士を雇用するところも多く企業化している。人付き合いが下手では勤まらない。ゼミの学生（福島出身）が郷里にUターンし、アルプス電気の工場に就職したが語学力を買われ海外勤務。カナダ10年、その後ロンドン駐在。日本に帰る時は歯医者に行く時のみで一生海外生活。本人は、人生狂ってしまったと嘆いていたが、人生は計算通りには行かないものだ。

学力は今ひとつだが社会に出て成功する者はタフな男が多い。学業成績と世の中で生き抜く力は別々なものと言っても良い。

### (4) 特色ある大学

神奈川大学では、全国高校生俳句大賞を創設し応募者は年々増加。特選に入った応募者からプロの俳人を輩出した。創設するに際し、一番考えたのは選者の選定。朝日・読売・毎日新聞の選者から一人づつ著名な先生にお願いし大好評であった。先生方からも「我々が横に一つに並ぶのは大学のお蔭」と感謝された。朝日新聞1面のコラム「折々のうた」で大岡 信氏が全国高校生俳句大賞を10日連続し取り上げてくださった。神奈川大学には立派な先生が沢山いるが、あの朝日新聞一面で大学の名前が載るということは宣伝効果抜群と自画自賛している所です。俳句大賞は大学を知って頂く良い方法ではないかと思う。

もう一つは、「誰がだれか」というブックレット。大学3年・4年生にとって欲しい情報、即ち大学卒業後2～6年の方々が今どういう仕事をしているのかが一覧表が出ると、自分は何になれるのか人生が見えてくる。この冊子は受験生もよく読む。この大学に入り出てこういう風になれるんだということが分かってくるという効果もある。

教員はマラソンの伴走者。今まで学生から山ほど教わってきた。学生の就職が決まったら、即座に会社に行き人事部長に頭を下げなさいよと若い先生にお願いしている。

(完)

## 産学連携事業等で包括協定を締結

～協定先は横浜銀行、ブックオフコーポレーション～

神奈川大学は、7月3日、株式会社横浜銀行（横浜市西区、小川是頭取）と、また9月4日にブックオフコーポレーション株式会社（相模原市、佐藤弘志代表取締役社長）と産学連携など様々な分野で協力するための包括協定を締結した。

横浜銀行との協定の柱は①産学連携②大学が持つノウハウの活用③教育全般に関する支援・協力④キャリア形成支援。具体的には、神大発ベンチャー「未来環境テクノロジー株式会社」が保有する知的財産を銀行の取引先に紹介する。銀行が運営する「横浜アジア倶楽部」会員企業などと大学研究グループとの産学連携の機会を提供する。銀行取引先を対象に大学教授、弁護士教員による無料法律相談会の開催。「銀行論」をテーマとした寄附講座を大学で行う。銀行主催の各種セミナーと学生のクラブ・サークル活動を融和させたイベント実施を検討する。学生のインターンシップ（就業体験）でも、これまで以上に学生を銀行で受け入れるとしている。

神奈川大学は昨年7月にりそな銀行と包括協定を締結。横浜銀行にとっては横浜市立大学に次ぐ2校目となった。

ブックオフコーポレーション株式会社〔東証1部上場企業で中古書籍、中古CD販売では全国首位〕は地域に根ざした研究・教育の推進で協力するために包括協定を締結した。

具体的施策としては、①活字文化の普及推進を図るために、大学では学生が地域の子供達や外国人の方々とともに遊び、学ぶ活動を支援してきたが、今後こうした活動の一環に会社から提供された書籍を通じて一緒に楽しみながら本を読む活動を行う②活字文化と古本産業に関する調査研究を行う③会社から提示される身近で実践的課題を対象にして、消費者心理、比較文化、地域産業などの視点を踏まえて大学が難題解決を目指した実践的な教育を行う④実践的な調査・研究教育において活用することを目的に、マルチメディア教材を作成する⑤会社は、学生インターンシップを受け入れ、リユースや書籍産業のみならず就業全般に対す

る理解を深めるとともに、キャリア形成支援として起業体験講座を実施し、学生の企業に対する意識の啓発を行うとしている。

## 第85回箱根駅伝出場枠3校増枠

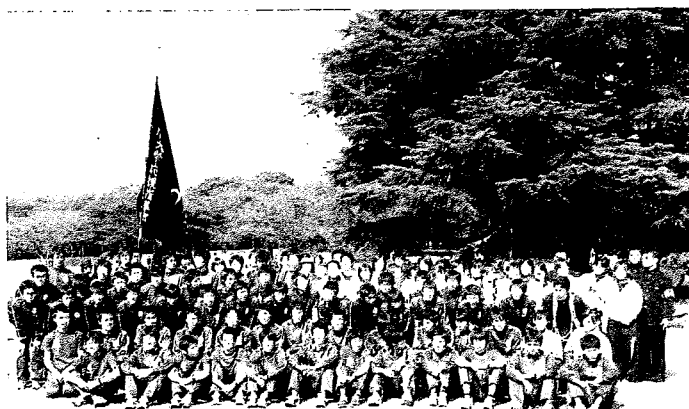
～ 10月18日（土）立川で予選会を開催 ～

関東学生陸上競技連盟は、第85回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会要項を発表した。開催日は、10月18日（土）、午前9時に陸上自衛隊立川駐屯地をスタートし、立川市街地を經由し、国営昭和記念公園をゴールとする20kmを選手は走る。

第85回記念大会には、シード権を獲得している9校に加え、予選会から13校を選考し、関東学連選抜チームを加えた23チームが出場する。

選考方法は、各校10名の合計タイムによりまず10校を選び、続く3校は第87回関東インカレの成績に基づくポイント制との併用により選ぶ。関東インカレの結果、減算される時間は、神大1分35秒、順大3分50秒、東海大3分40秒、国士大3分35秒、日体大3分30秒、法政大3分10秒。2分台の大学は6校で参加校は昨年の場合42校。シード権を逃した城西大、日体大、東海大、順大、国士大、大東大の強豪校に加え、慶大、明大、青学大、立教大も参戦し激戦が予想される。

三浦半島支部では、応援者を募り予選会会場で学生、他支部の卒業生とともに神大駅伝チームを応援いたします。参加希望者は、支部役員までご連絡ください。



昨年の予選会会場での陸上競技部部員

## 湘南信金理事長に石渡<sup>たかし</sup>卓氏

(昭和51年貿易卒)が就任

神奈川県内56店舗、東京都内2店舗で営業活動を展開する湘南信用金庫は、6月25日理事長交代の発表を行った。新理事長は、昭和51年経済学部貿易学科を卒業した石渡卓氏(54歳)。24年間にわたり湘南信金理事長を務められた服部眞司氏(現会長)の意思を継承し、新理事長に就任した。

石渡理事長は、昭和51年4月横須賀信用金庫(現湘南信用金庫)に入庫後、大口支店長、伊勢佐木町支店長(理事)、本店営業部長(理事)を歴任後、平成16年常務理事に就任。趣味はゴルフとJリーグ観戦。



7月7日湘南信金本店を訪問、前列右が石渡氏

### < 特別寄稿 >

## 神大スポーツ(スポーツ新聞)を発行して

学生生活支援部学生課 西川 朋美

大学スポーツ新聞が、今脚光を浴びている。早稲田、慶応、明治、立教、中央、駒澤、帝京等多くの大学が発

行しており、正月3日の箱根駅伝ゴールの大手町では号外が配られている。

神大でも体育会学生、大学職員の献身的な努力でようやく発行されることになり嬉しく思う。6月に東京ドームで開催された全日本大学野球選手権でも試合終了後、号外が配られ感動した。今回、神大スポーツ発行までの経緯、日頃ご苦労されていることなど、大変お忙しいなか学生課職員西川朋美氏に執筆をお願いした。

(編集部)



本学のスポーツ団体の活躍を、より多くの方に知っていただくという趣旨で始まった神大スポーツも、7月18日に第2号目を発行することが出来ました。

そもそも、神大スポーツは昨夏に体育会本部の学生が「スポーツ新聞を発行したい」と学生課に相談に訪れたのがきっかけで始まりました。彼らは、自分達の活躍を多くの在校生に知っ

てもらい、応援にも足を運んで欲しいと思っていました。そこで、学生達はまず、自分達でスポーツ新聞を作ったのです。しかし、その紙面はパソコンで簡単に作ったものだったため、完成度が高いとは言えず、学内で配布してもあまり在校生に興味を示してはもらえませんでした。

そのような苦勞を踏まえた上で、今年2月より本格的な創刊に向けて、課外活動を担当している学生課が発行までのあらゆる業務の中心になり、広報課が紙面づくりの編集を、体育会は各クラブの情報収集と原稿制作を担うことで歩み出しました。

神大スポーツは、「学生が主体となって関わり、作っていくことに価値がある」ということをコンセプトとし、在校生に読んでもらうことに目的を絞り、定期発行を7月と3月に決めてスタートしましたが、紙面においては、どのクラブのどの情報を掲載するか、紙面全体はどんな情報が必要なのかを決めること、そして情報を集めることが最初の難関でした。

特に、1面にどの情報を載せるのかはそれぞれの思いやこだわりが強く、最も意見が分かれるところで、それを決定することが最も苦勞したことはないかと思いません。

そのような慣れない中、創刊号は職員が中心になり制作を行いました。2号目は学生自身が実際に取材をし、自ら原稿を作り、さらにはどんな紙を採用するかというところまでこだわり、本格的に学生とともに作り上げることができました。

今後は、学生の思いから始まったこの動きをフォローし、より多くの方に発行が待ち遠しいと思われるようなスポーツ新聞を作って行きたいと思えます。

ディをとるなど、前半グロスで1打差であったが、後半、会員でコースを熟知している三縄氏に逃げ切られた。3位は斉藤氏、4位は鈴木和夫氏、5位は武笠氏という結果であった。

終了後のパーティでは、今後賞金の一部を宮陵会に寄付することを提案しご賛同いただいた。次回コンペは11月に千葉で行う予定です。お誘いのうえ、多数のご参加をお待ちしております。

( ゴルフ会世話人 中川 六郎 )

ゴルフ会参加希望者は下記までご連絡ください。

連絡先：中川氏 携帯 090-9003-2499

自宅 046-875-4360

メール nakaroku@jcom.home.ne

〒240-0111 葉山町一色1087

## 支部同好会通信

### 三浦半島支部ゴルフ会

#### 第6回オープンコンペを開催

7月11日(金)、第6回宮陵会三浦半島支部オープンゴルフコンペが葉山国際カンツリー倶楽部で行われた。天候は曇りの予報であったが晴れとなった。今回、昭和44年法律学科卒業の斉藤勤元参議院議員が初めて参加し、ネット72.4(グロス102)で見事3位入賞となった。

宮陵会からは秋田副会長、武笠副会長が参加された。優勝は、三縄昭男氏でネット70.8(グロス85)。準優勝は御園政明氏でネット71.2(グロス89)の僅差であった。優勝した三縄氏は、5つのショートを含めて8つのパーをとり、ハンディキャップの多いホールを確実にものにしている。



オープンコンペも6回目の開催となった

御園氏は、1番ショート、後半15番ロングでもパー

### 会員からの短信



会員の皆様からの原稿を募集しております。学生時代の思い出、趣味、旅行記、仕事のこと等テーマは自由です。字数は1,600字以内。写真を添付し下記までお送り下さい。

( 送付先 )

〒239-0835

横須賀市佐原3-21-33 鈴木 稔

メール ne2tf6@bma.biglobe.ne.jp

### 死生観について

上原 章道

私は、病院に入院している患者さんを訪問する傾聴ボランティアをしています。難病や末期癌の患者さんに



お話を聞く過程で、「あなたは、何か信じていますか」、または「宗教をお持ちですか」と質問することがあります。多くの方が「何も信じていない」と答えられます。

日本人は、宗教を問われると「無宗教」と答える人が多いそうです。日本には伝統宗教の神道、仏教、キリスト教があります。多くの家庭には神棚や仏壇があります。年の初めには神社に参拝します。これらの人達は神道または仏教を信仰しているとも言えるのではないのでしょうか。

それはさて置き、私が出合ったある患者さんを通して信仰について考えてみたいと思います。ホスピスのお茶サービスのボランティアでのことでした。70歳半ばの男性がテーブルにつきました。お茶を供しながらお話を聴きました。「今、こちらではどのような気持ちでお過ごしですか」と心の状態を尋ねました。その方は「怖い、怖いよ、死ぬのが怖い」と言われました。ホスピスは、治療ができず間もなく死を迎える末期癌の患者さんが来る施設です。ここに来る人達は死を受容している方が多いのですが、この男性はそうではない。死を目前にして死を受け容れることができない哀れさがありました。

私は、意を決して「人は必ず死にますよ。死ぬのはあなただけではありません。こうして一見健康そうな私もいつかは死にます。死は、どんな人にも確実に訪れます」と伝えました。「そうか、自分だけではないのだ」と言われて穏やかな表情になりました。それから、「宗教は、何か信じていますか」と尋ねました。「何も信じていない」と答えました。「お父さん、お母さんは健在ですか」と問うと、「もういない、死んだ」と言われました。

「亡くなったお父さん、お母さんは今どこにいますか」に「あそこ」と言って上を指さしました。「あそこですか、向こうの世界ですね」に頷かれました。そこで、「あなたは、向こうの世界を信じているのですね。そこは信仰の世界です。立派な信仰をお持ちだと私は思います」と伝えました。「死んだお父さん、お母さんに会えますね」と伝えたら、「そうだ、オカアとオトウに合える」と言われました。来た時とは違う表情になり、ほどなくして自室に戻られました。その方は1週間ほどして亡くなりました。

人は死ねばゴミになると言った有名な評論家がありました。死は無である、消えてしまうと言う人もいます。また地獄と極楽、または天国に行くとも言われます。仏教の輪廻転生、キリスト教の再生と宗教によって異なりますが、魂の存在は共通しています。しかし、死後の世界は私たちには分かりません。そこは信仰の世界であり、宗教でないと説明できないことです。

健康な時には意識しない宗教・信仰が、難病や癌に罹患し治療しても余命幾許もないと宣告された時に忽然と意識するのではないかと思います。どうして自分がこのような病気になったのだと不運に嘆いても不条理なことですから誰にも説明できません。病気を受け入れることができず苦しむこととなります。

私たちは、何も持たずに生まれ、何も持たずに死んで行きます。死は他人事ではなく自分自身のことです。死亡率は100%です。そしていつやって来るかも分かりません。人は生きてきたように死んで行く。また、よく生きた人はよき死を迎えられるとも言われます。人は死の瞬間脳裏に走馬灯のように自分の人生を振り返ると言われています。満足な人生であれば極楽(天国)であり、悔いの多い人生であれば地獄に行くことになるのでしょうか。自分で自分を評価しての満足であり、または後悔です。他人は誤魔化せても自分で自分を誤魔化すことはできない。これほど厳しい評価はないと思います。

極楽(天国)、地獄は信仰のない人には無縁の世界です。信仰がないだけに喜びも心配することもなく、「一巻の終わり」と言ってこの世とサヨナラできます。しかし、私たちは先祖から伝わる命を生き、その命を子孫へと繋ぐ役割を担っています。私たちの体は物質だけでできているのではなく、精神も宿っています。精神・魂・命、これは物質ではありません。物質以外の存在を認めるならば、死と共に消滅し無になるとの考え方に与する人は少ないのではと、私は思います。

ボランティアとして多くの関わりを持ちました。検査入院から、入退院を繰り返し最期を迎える直前まで関わりを持った方もいました。死の前日になると言葉を発することができなくなります。それでも聴覚は最後まで機能していますから、話しかけます。「よく頑張りましたね」と闘病生活を労い、童謡を歌いお別れすることもありました。

このボランティアを通して死を身近に感じるようになりました。人は必ず死ぬ。死は自然のことであり避けることもできないし、その必要もないと思えるようになりました。家族の絆に加えて心の支えとしての信仰の大切さも分かりました。人生の店じまいが近い年齢になりました。まさに目を閉じる時に「よい人生だった」と自分で評価できる生き方をしたい。残り少ない人生ですが・・・。

これが、このボランティアを通して学んだ私の死生観です。



## 神大は私の青春

野村 晴男



横須賀市の森崎団地で妻と二人で暮らしている野村です。新年会にしか顔を出していませんが、命がある限り宮陵会三浦半島支部の会員ですのでよろしくお願い致します。

私は、2年前に神奈川県を定年退職し、現在再任用職員として再雇用（3年間）され、新採用職員の気持ちで頑張っているところです。病気もせず無事に定年を迎え、今現在、健康なのは自分としても健康に十分留意していましたが、やはり何と云ってもそれは妻のおかげなのだろう。タダ感謝・感謝。三人の娘も昨年・今年・来年にそれぞれ結婚。これから二人だけの生活が10年・20年と続くので、果たして上手くやっていけるのか不安もあるが、今までとは逆に一歩も二歩も妻に譲って、明るく楽しい家庭を築いて行こうと思っています。

終戦の年に生まれた私は、昭和39年に製紙会社に就職し、仕事にやりがいを持って頑張っていました。会社が左前となり大手企業の子会社として吸収されたため見切りをつけて、神奈川県の実験を受け合格し、その年の12月に採用されました。

職場の先輩は、ほとんどが夜間大学の卒業生か現役生で「大学へ行けば、何らかの得ることがあるから」といわれ、翌々年の4月から「神奈川大学第二法学部法律学科」の学生として、昼間は勤労者、夜は学生として頑張りました。環境の異なる色々な人達と友達になれたことが大変収穫でした。また再度勉強をするということに喜びもありました。

今、思い出すのは、①学食の安いラーメンとランチの組み合わせがボリュームがあっておいしかったこと。②図書館で仮眠し過ぎて、授業に遅れたこと。③体育祭でマラソン出場し、完走はしたもののトラックでは、既に次の競技が始まっていて、トラック1周ができなかつたくやしき。(その時は、確か二部が総合優勝したと思う。)④なんといっても学園紛争だ。確か昭和44年2月頃だ

と思うが、昼間部学生が校舎をバリケードで封鎖した。そのために授業が受けられない我々二部学生(学友会)は、緊急集会を開き、その足で約200人位でスクラムを組み「勉強をさせろー」、「封鎖解除」等とシュプレヒコールしながら中庭などでデモをした。その時、近くにいた昼間の学生(自治会一反帝学評だと思ったが)は、ヘルメットをかぶり顔をタオルで隠し3m近くの角材を襲し、ピピと笛を吹きながらジグザグデモを繰り返し、我々のデモを威嚇するように近づいてきた。異様な光景である。

一瞬嫌な予感が過ぎた。そして我々の隊列を崩しにかかってきた。無防備で未経験な我々の隊列は乱れ、血を流す者や泣き出す者も。ただ「勉強したい」というだけなのに。その後も休校は何回とあったが、安田講堂が陥落してからは学園紛争も下火になったと思う。制服で通学していた自衛隊員は私服で通うようになりました。

あの時代は、上司や先輩・友人達と飲み屋で政治や社会、恋愛について堂々と語り合ったものです。また臨海公園から横須賀中央駅までのデモや東京・横浜のメーデーにも参加したものだ。あの頃の純粋な自分が懐かしい。

今の私があるのも神奈川大学での4年間に色々な人と出会い、講義を受けることにより物事に関心をもち、究明して、またそれが自信につながったからなのかもしれない。大学に行くことを勧めてくれた先輩に大感謝だ。

現在は、再任用職員として週4日の勤務。最善を尽くし「飛ぶ鳥跡を濁さず」ではないが、職務を全うしたい。そして、これが実質の定年退職と自分では位置づけているのだ。

週4日勤務以外の日は、囲碁、卓球、コーラスに打ち込んでいる。その他にボランティアとして横須賀市の「花のボランティア」を10年続けている。一つは久里浜緑地公園周辺の県道沿いの割り当てられた花壇に春はポピー、秋はコスモスを満開にさせるべく、種蒔き・雑草抜き。水やり・そして満開後の刈り取り。もう一つは、市役所前公園の花壇に四季折々の花を50人位で一気に植えます。通りすがりの人達が、「綺麗」「ご苦労様」と言ってくれることが励みになっています。皆様も各ボランティアにお会いになりましたら一言声をかけて頂ければ幸いです。

来年の4月からは、完全に自由の身となりますが、自分にあったボランティア活動をすべく①以前に取得したヘルパーの資格を生かすか②自分の趣味や特技を中心とするか③知人等に誘われて何かをやるか、現在検討中です。

以上取り留めの無い文章でしたが、昭和45年卒業の

野村です。今後ともよろしくお願いします。

(昭和45年第二法学部法律学科卒業)

## オートバイに明け暮れた 大学時代が私の原点

井口 淳



初めまして、昭和62年機械工学科卒、鎌倉在住の井口 淳(いのぐち じゅん)と申します。大学卒業後、横浜市金沢区の会社に3年4ヶ月勤務後退社し、その後、横須賀市内のバイクショップに約3年勤めた後独立、現在鎌倉市手広で小さなバイクショップを経営しております。

同じ会社員であった妻と小学4年の娘がおります。その娘に大学がどういうところなのか、大学全入の今、雰囲気だけでも触れさせたいと、昨年の神大学園祭に家族3人で行きました。校門からすぐの所に「宮陵会」のテントがあり、卒業生への呼びかけをされていました。組織だったものが苦手な私なのですが、その時の役員の皆様がとても好印象で、後日三浦半島支部への入会申込をさせていただきました。そして今回、三浦半島支部長の古川様より原稿依頼をいただき、優秀とは程違う学生でしたので大変戸惑いましたが、現在の自分があるのはたくさんの皆様のおかげなので、感謝を込めてダメな見本を書かせていただきました。

私が神大に入学した昭和57年(1982)頃から在学中はいわゆるバイクブームの全盛期で、大学の周辺も今では考えられないくらい駐輪バイクでいっぱいでした。高校時代の受験呪縛と3ナイ・4ナイ運動(バイクに乗らない、乗せない、免許を取らせないなどのPTA活動)から開放され、明けても暮れてもオートバイ三昧の日々。オートバイに乗るためのアルバイト生活、大学の講義は最低限の出席のみ。学業での成果は少ないが、度重なる交通違反での免許停止は6回を数え(皮肉にも免許講習所は六角橋)、同期2人をオートバイ事故で失い、私自身も事故入院や歩行者との人身事故を起こし、

大学を辞めようとも考えました。

当然のように留年し、周囲の支えで何とか卒業だけは出来ましたが、学生生活で学んだことは学業より社会勉強でした。時代はバブル期に突入していたため、希望のオートバイ業界の就職は叶いませんでしたが、成績の悪い私のような学生でも歓迎されて就職が出来た時代でした。しかし喜びもつかの間というか、世間はそう甘くはなく、仕事に追われる日々にオートバイどころではなくなりました。もし仮に、オートバイ関係の仕事だったら続けられたのか、今になってはわかりませんが、その時の私の気持ちは「一生この生活は続けられない」という結論でした。

入社3年余りで退社することは、会社にも大学側にも申し訳ない思いでしたが気持ちは変えられず、それならば一度オートバイの仕事をしてみようかと決心しました。職安に行ってもオートバイ関連の求人はなく、一人で探した仕事はバイクショップのアルバイトでした。そしてここで過ごした約3年間で今の自分の最終学歴だと思っています。

ショップの定休日に行われていた整備士講習会も楽しく、盆と暮れの休みだけでも全く苦にならず充実していました。そしてお世話になったショップを卒業し独立することになりました。まだまだ経験も足りず、希望よりも不安ばかりが先行してのスタートでした。仕事のない日も続きました。少しずつ仕事がいただけるようになって、毎日が楽しいことの連続でした。失敗も数知れず、落ち込むことも多々ありましたが、そんな時偶然にも神大の箱根駅伝優勝で勇気をもらいました。あの時ほど神大を卒業して良かったなと思ったことはなかったです。

そして我が店もおかげさまで今年の5月で15周年を迎えることが出来ました。好きな仕事と夢中で走ってきました。箱根駅伝にたとえるなら往路を走り終えたところ。復路6区の山くだりでは加速して、社会不安や景気の悪化を振り切ろうと思います。まだまだゴールは遠いですが、次の中継点で待つ自分に襷がつながるようにお客さんや仲間、そして家族の応援をもらって走り続けたいと思っています。そして私もまた周囲の人達、特に若い人に私の失敗や経験を伝えながら応援して行きたいと思っています。

(昭和62年工学部機械工学科卒業)

井口 淳さんのお店をご紹介します。  
国産バイクの修理を中心に新車・中古車の販売や車検(代行)を行っております。お店は「BIKE SHO

P ファイン・ロード」。鎌倉市手広2-32-6。  
電話0467-32-9386。営業時間は10時から  
19時。定休日は日曜日、休日。

バイクに関心をお持ちの卒業生の皆様よろしくお願  
いいたします。(編集部)

## 事務局からのお知らせ

### 三浦半島支部新会員のご紹介

昨年11月以降に支部会員になりました方々をご紹介  
いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

(敬称略)

- ◎ ひるこ 蛭子 英二 (37年電気・横須賀市ハイランド)
- ◎ 大倉 国光 (38年法学・横須賀市平作)
- ◎ 浅山 正義 (40年貿易・横須賀市馬掘海岸)
- ◎ 久保田 宣彦 (44年法律・横須賀市米が浜通)
- ◎ 武井 利徳 (45年経済・横須賀市湘南鷹取)
- ◎ 名取 美佐男 (45年経済・横須賀市深田台)
- ◎ 鈴木 和夫 (46年法律・横須賀市浦賀丘)
- ◎ 石田 泰教 (48年貿易・横須賀市鴨居)
- ◎ 天白 世里子 (49年短商・三浦市海外町)
- ◎ 天野 茂 (50年法律・横須賀市太田和)
- ◎ 松井 一郎 (53年経済・横須賀市長瀬)
- ◎ 下村 俊一 (55年貿易・横須賀市平作)
- ◎ 川口 好孝 (56年経済・横須賀市池上)
- ◎ 石渡 大輔 (56年法律・三浦市栄町)
- ◎ 井口 淳 (62年機械・鎌倉市津)
- ◎ 堀越 昌樹 (62年法律・横須賀市野比)

平成20年8月31日現在 会員105名

### 平塚祭・神大フェスタのご案内

秋は、大学祭のシーズン到来。湘南ひらつかキャン  
パスの「平塚祭」、横浜キャンパスの「神大フェスタ」の  
開催日が決定しました。当日は飲食店やフリーマーケッ

トが軒を連ね、研究や課外活動の発表が行われます。

### 第20回 「平塚祭」

日程 10月25日(土) 10時~18時  
10月26日(日) 10時~18時

会場 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス

### 第10回 「神大フェスタ」

日程 11月 2日(日) 10時~17時  
11月 3日(月) 10時~18時

会場 神奈川大学横浜キャンパス

### 第14回神奈川大学ホームカミングデー

来る10月19日(日) 12時、母校神奈川大学横浜  
キャンパスにおいてホームカミングデーが開催される。

卒業後50年以上、35年、20年、10年と本年3  
月卒業生が神奈川大学ホームカミングデー実施事務局か  
らゲストとして招待される。12時から式典、12時3  
0分から懇親会が開かれ、吹奏楽部・課外活動団体によ  
る演奏や演技が行われる。毎年多くの卒業生が全国各地  
から集まり盛況。参加費は無料。

### フロンティアクラブ産学交流サロン講演会

神奈川大学フロンティアクラブ産学交流サロンでは、  
みなとみらいエクステンションセンターを会場にし、下  
記の講演会を開催します。興味をお持ちの方は参加さ  
たらいかがでしょうか。

第1回 平成20年11月19日(水) 18時~20時  
テーマ 「磁石の不思議と科学技術」  
講師 工学部准教授 阿部 晋先生

第2回 平成21年1月21日(水) 18時~20時  
テーマ 「雇用崩壊時代の人材開発」  
講師 経営学部教授 林 悦子先生

第3回 平成21年3月18日(水) 18時～20時

テーマ 「人口減少時代における都市計画のあり方」

講師 工学部教授 山家 京子先生

(参加費) 各回ごと2,000円

(申込み・問い合わせ先)

神奈川大学産官学連携推進室

TEL045-481-5661 (代表) 内線2151

### 会費納入のお願いについて

年会費未納の方お振込をお願いいたします。

郵便振替受入口座 00290-5-95815

宮陵会三浦半島支部

横浜銀行口座 久里浜支店

普通貯金 1747984

宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部

代表 鈴木 稔

会費は年間3千円。4年前納は1万円です。

### ～ 編集後記 ～

今年の夏は猛暑、ゲリラ豪雨の来襲に見舞われるなど異常気象が続いた。

4月の第5号に次いで第6号の会報を発行することができたが、毎回悪戦苦闘の連続。特に一人で紙面の企画、原稿執筆、パソコンでの編集作業を行っている時には投げ出したくなる時がある。今回は講演会講演要旨の纏めに時間を費やし、発行予定日が10日間延びてしまった。明日は、横須賀市民活動サポートセンターの高速印刷機で印刷後、会報と神大スタイルを佐川急便営業所に持ち込み終了。会報をお送りすると年会費が続々と振り込まれてくる。しっかりやらなければ払えませんよというサインか。気を引き締めて取り組まなければ、三浦半島支部の存続も危うくなる。(S)

## 支部年会費納入状況

(平成20年8月31日現在)

〔平成21年3月まで納入者〕

(鎌倉) 篠田 拓郎 川瀬 元夫 山岸 一輔  
 (葉山) 中村 進  
 (横須賀) 上野 讓 萩原 孝 角谷 彰  
 蛭子 英二 鈴木 昭利 島 久喜雄  
 南雲 忠男 大倉 国光 上原 章道  
 浅山 正義 金野 義勝 武井 利徳  
 青山 隆一 石渡 敏夫 長島 保雄  
 鈴木 三郎 松井 一郎 下村 俊一  
 石田 泰教 川口 好孝

〔平成22年3月まで納入者〕

(鎌倉) 小澤 光 石井 和行 若林 秀明  
 北野 紘一 古川 勝彦 飯田 秀男  
 (逗子) 岸本 光瑞 松本 育雄 千葉 毅一  
 (葉山) 岩澤 正之 石渡 俊一  
 (横須賀) 山内 元式 森 茂 八嶋 政臣  
 中山 廣男 石井 一男 落 勝廣  
 菊池 武 村田 龍也 結城 康雄  
 長谷川征勝 金井 昌孝 熊澤 勝喜  
 寺脇 敏彦 早川 勝繁 福島 康臣  
 相原 充 砂川 正夫 森下 守久  
 鈴木 稔 野村 晴男 田中 久夫  
 嶋田 晃 塩塚 定雄 舟崎 学志  
 内藤 正久 清水 英樹 星山 正範  
 新藤 優 工藤 真也  
 (三浦) 原 柳作 石渡 大湖

〔平成23年3月まで納入者〕

(鎌倉) 矢澤 基一 (逗子) 長沢 良成  
 (横須賀) 鳥海 洋義 松岡 和行

〔平成24年3月まで納入者〕

(鎌倉) 井口 淳 (葉山) 小池 邦夫  
 (横須賀) 鈴木 和夫 塚田 尚 奥野 昌洋  
 久保田宣彦 箕輪 義夫 二井美恵子  
 名取美佐男 (三浦) 天白世里子

会費納入者 80名